

鶴居村地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

本村は、北海道東部の釧路総合振興局管内のほぼ中央に位置し、東西約20km、南北約44km、571.80km²と広大な面積を有している。国勢調査による本村の総人口は、昭和30年の4,824人から減少が続いており、昭和60年には医療機関の進出などにより総人口は一時増加したものの、以降は微減傾向が続き、令和2年の人口は2,558人となっている。このような中、少子高齢化も進行しており、令和2年における高齢者人口の割合は35.6%となっている。

鶴居村においては、生活圏である釧路市へ通じる唯一の幹線交通は路線バスである。この路線バスは、釧路市の総合病院、高等学校、大規模な商店等が当村住民の日常生活機能の一部を担う中で、幹線交通が釧路市に向かう唯一の手段として、車を運転できない高齢者や高校生等を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。

また、村内移動に関しては、路線バス、福祉バス、スクールバス、高齢者等個別移送サービス、ハイヤーがあり、鶴居市街の診療所への通院、小中学校への通学や買物等に利用されている。

しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、当村の公共交通機関の利用者は減少を続け、収支悪化による行政負担の増加をはじめ、運行に様々な問題が発生している。

特に路線バスの幌呂線は、利用者が非常に少なく、路線維持に要する輸送人員一人当たりの負担額も他の路線と比べ突出して高いことから、より効率的な運行が求められている。

また、幹線交通と福祉バスの接続が不十分であったり、そもそも交通手段が確保されていない交通空白地域もあり、住民に不便を強いている状況にある。

このため、地域公共交通確保維持事業により、幌呂線の路線再編及び運行形態の転換を図るとともに、同地区を運行している幌呂・夢の杜線についても見直しを行い、通院、通学、買物等のニーズに対応できる運行形態への転換を図り、幌呂線及び幌呂・夢の杜線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。

生活交通確保維持改善計画の目標

幌呂線代替交通(市町村運営有償運送)の年間乗車人員

目標:2,700人/年以上

地域公共交通の現況

- ・鶴居村デマンドバス(1路線)
- ・阿寒バス(株)(4路線)
- ・ハイヤー(1事業所)
- ・高齢者等個別移送サービス(1事業所)
- ・鶴居村福祉バス(1路線、火～金日替わり)
- ・鶴居村スクールバス(5路線)

協議会開催状況

【令和3年度】

- ・第1回鶴居村地域公共交通会議書面会議、令和3年6月30日～7月9日、地域内フィーダー系統確保維持計画を協議、了承
- ・第2回鶴居村地域公共交通会議書面会議、令和3年8月25日～9月1日、鶴居村デマンドバス使用料及び市町村運営有償運送登録申請を協議、了承
- ・第3回鶴居村地域公共交通会議書面会議 令和3年10月25日～11月8日、自家用有償旅客運送(高齢者等個別移送サービス事業)に係る更新登録申請を協議、了承
- ・第4回鶴居村地域公共交通会議書面会議 令和4年3月23日～3月31日、令和3年度事業報告・収支決算(見込)及び令和4年度事業計画(案)・収支予算(案)を協議、了承

【令和4年度】

- ・第1回鶴居村地域公共交通会議書面会議 令和4年6月16日～27日、令和3年度収支決算及び地域内フィーダー系統確保維持計画を協議、了承
- ・第2回鶴居村地域公共交通会議書面会議 令和5年1月5日～17日、地域公共交通確保維持事業に関する事業評価(案)を協議、了承

令和4年度事業概要

運行系統名:幌呂線(代替交通)

運行区間:新幌呂～夢の杜団地

運行回数:715回

運賃:現金運賃 100円～300円、定期運賃 通学定期半月300円～一般定期3か月32,000円

【車両減価償却費等国庫補助】

1) プロセス、創意工夫

(1) 住民ニーズに応じた路線バス網の再編

① 幌呂線及び幌呂・夢の杜線の再編・運行形態の転換(実施主体:鶴居村)

- ・幌呂線及び幌呂・夢の杜線については、幌呂地区と夢の杜団地を結び、鶴居線に接続する路線として一体的に再編するとともに、運行形態を市町村有償運送に転換した。
- ・高校生の部活後の帰宅便として利用されている鶴居線の最終便に接続する便を新設することで、幌呂地区の高校生の部活後の帰宅の足としての機能を確保した。

② 乗換拠点の整備等(実施主体:鶴居村)

- ・幌呂線及び幌呂・夢の杜線の再編・運行形態の転換に伴い、幌呂地区から釧路方面への往来にあたっては、鶴居線への乗換が伴うため、利用者が快適に乗換えられるよう、乗換拠点に案内看板を設置した(夢の杜団地停留所)。
- ・利用者の安全確保のため、周辺に街灯がないバス停留所に街灯を設置した(新幌呂停留所)。

(2) 公共交通利用促進に向けた情報発信の強化・利便性の向上

① パンフレットの作成・ホームページの開設等(実施主体:鶴居村)

- ・路線バスだけでなく、福祉バスや高齢者等個別移送サービス事業、ハイヤーなど村内の公共交通に関する情報を網羅したパンフレットの作成・配布(全戸配布)、ホームページの開設、村広報誌・IP告知端末放送・自治会等回覧による周知など、公共交通利用促進に向けた情報発信の強化を図った。

② バスの乗り方教室等の開催(実施主体:鶴居村)

- ・バス路線網の再編、福祉バスや高齢者等個別移送サービス事業の改善・充実と合わせて、これらの事業内容の周知や具体的なバスの乗車方法などについて、老人クラブ等の住民団体と連携し、それぞれの地域へ出向いてバスの乗り方教室を開催した。
(住民説明会・意見交換会4回、高齢者乗り方説明会1回実施)

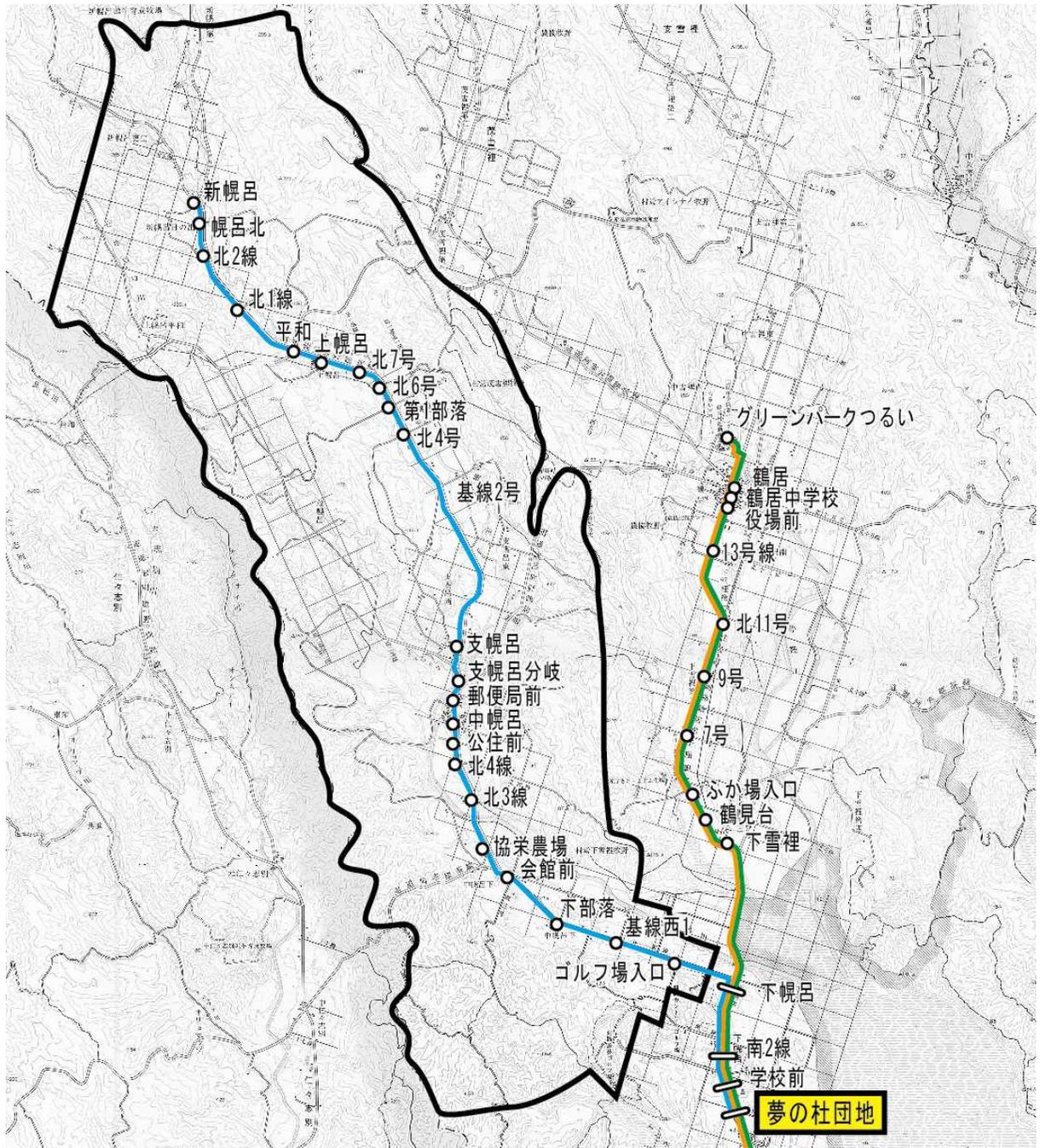
③ 利用促進に向けた改善(実施主体:鶴居村)

- 住民説明会等(利用者ヒアリング含む)の意見から以下のとおり改善した。
- ・高齢者の利用を促進するため、冬期の道路状況や朝の運行時間を考慮し、始発便以外の便は、自宅から自宅まで送迎するドア・ツー・ドア運行とした(令和4年7月15日より実施)。
- ・予約の手間を軽減するため、電話に加え、ラインによる予約を開始した(令和4年7月15日より実施)。

2) 運行系統

【幌呂線(代替交通)・運行ルート図】

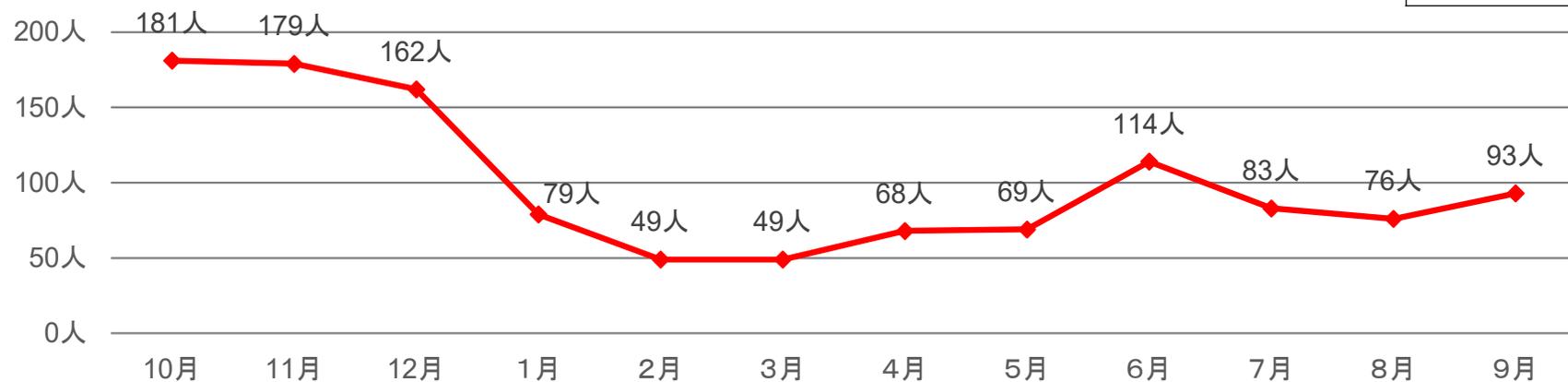
凡	例
基軸経路	
幌呂地区	
幹線系統 「阿寒バス鶴居線」	
幹線系統 「阿寒バス鶴居スクール線」	
他の公共交通機関 と接続するバス停	



3) 利用実績

令和4年補助年度（R3.10～R4.9）の月別輸送人員
幌呂線（代替交通）

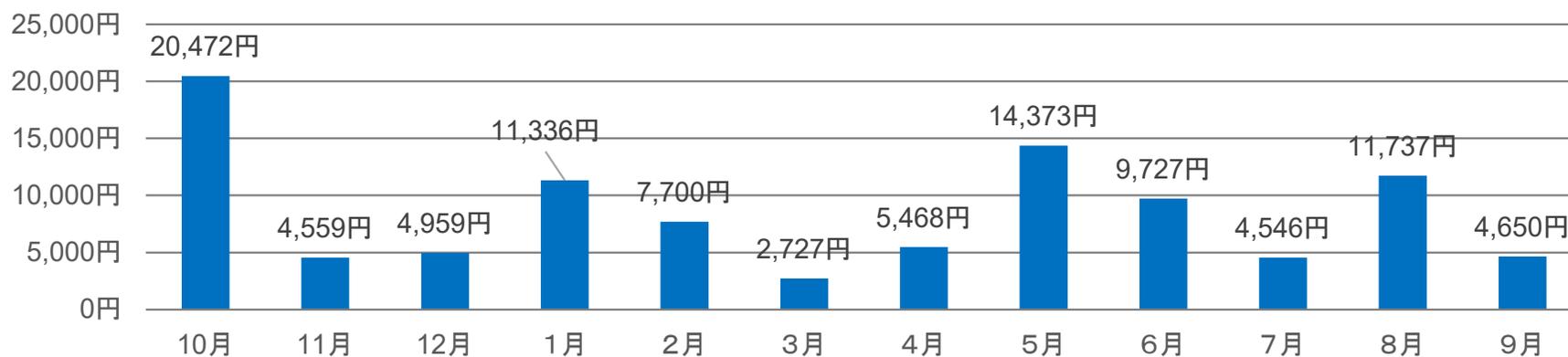
年間輸送人員	1,202人
月平均	100人



4) 収入実績

令和4年補助年度（R3.10～R4.9）の月別収入実績
幌呂線（代替交通）

年間収入実績	102,254円
月平均	8,521円



5) 事業実施の適切性

A: 計画通り事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

B: 事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった。

目標値: 2, 700人

【年間乗車人員】

↓

実績値: 1, 202人

コロナ禍の外出自粛や地域の人口減少等により利用者数が目標を下回ったが、デマンド化への運行形態の転換によって、効率的に運行することができた。

また、利用者数が想定を下回ったのは(コロナ禍、人口減少以外)、住民説明会等(利用者ヒアリング含む)の意見から、(1)ダイヤが利用ニーズを満たしていない、(2)高齢者への配慮不足(R4.7.15からドアツードア運行開始)、(3)予約が煩わしい(R4.7.15から電話に加えライン予約開始)ことも要因と考えられる。

7) 事業の今後の改善点

(1) 高校生以外の一般利用が少ないのは、釧路市内の滞在時間が長すぎる(滞在時間約7時間)ことが要因と思われる。そのため、土日祝日の一般利用増や高校生の部活対応のため、利用率の低い便を土日祝日に限り、民間路線バスの10時台の便に接続するとともに、釧路市内の滞在時間を短縮するため、15時台の帰宅便を増便し、一般(特に高齢者)の利用増を図る(令和4年10月1日より実施)。

(2) 今後は、新たなニーズの把握に努め、利用促進に向けた、運行の改善や新たな取り組みを実施することにより、利用増を図る。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標を達成することができなかったが、その要因として分析している住民説明会等での意見や、利用率の低い便に対する利便性の向上に取り組むとともに、地域公共交通プラン(地域公共交通網形成計画)に基づく施策の実施により、利用者ニーズのくみ上げを行うことを期待する。
- 持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。